

# 造形表現力を高めるための創造的な教材開発による授業評価（その1） ～ 本学・保育学科1・2年生の実態から ～

## An Assessment of Lecture Effectiveness through the Development of Creative Teaching Materials Designed to Enhance Artistic Expression (Part 1) — Based on the Observation of Freshmen and Sophomores of the Department of Childcare of this Institution —

(2011年3月31日受理)

角 田 みどり

Midori Sumida

Key words : 造形表現力, 教材開発, 授業評価

### はじめに

保育者を目指す学生が、幼児の造形について確かな理解を深め、指導者としての資質や能力を磨きながら、実践的指導力を身につけることは非常に重要なことである。野村智子は、著書「幼児の造形」<sup>1)</sup>の中で、幼児造形の指導者にとって特に重要な点を次の3点に示している。

1. 保育の基本を踏まえて、幼児の造形を考える。
2. 造形活動の指導には、専門的な知識や技術が必要である。
3. 保育者自身が感性を磨き、創造的活動への関心を深める。

こうしたことを踏まえ、以下の点から本研究のテーマを設定した。

1. 「幼児造形」の授業において、上記3の「保育者自身の感性」の醸成を大切にしたいと講義を構築したいと考えた。
2. 近年の保育・教育現場における「幼児造形活動」として取り上げられる造形題材がパターン化したり（絵画）、安易な教材セット（工作）に頼ったりする傾向も見られることから、学生が「描きたい」「創りたい」「やってみよう」という意欲に燃え、表現活動を心から楽しむことができるような、より「創造的な教材」を開発したいと考えた。
3. 現代では、従来からの表現材料（絵画はクレヨン・

パスなど）がかなり多様化し、非常に豊かな造形環境に恵まれていることから、学生に出来るだけ新しい造形材料体験をさせたいと考えた。特に、環境教育の側面から、「身近雑材料」や「生活廃材」の有効利用に目を向けさせたいと考えた。

4. 幼児の造形表現の表れ方を、大人の芸術のみに努めたい。また、幼児の表現はより自由であり、総合的であることから、造形のジャンル「絵画」「工作」「造形遊び」と分野別に考えるのではなく、「平面」＋「立体」と分野を組み合わせた表現活動も体験させたいと考えた。

### 研究の目的及び方法

以上を踏まえて、平成22年度の保育学科の必修科目「幼児造形A」「幼児造形B」（1年生）及び選択科目「表現B」（2年生）の授業において、造形表現の「創造的な教材開発」を行い、その授業評価の分析と考察を通して、成果と課題を明らかにすることを目的とした。

### 研究の内容

1. 「造形表現力」の定義を明確にする。  
「幼児造形」の指導者として、身につけさせたい「造形表現力」とは何かをまず明らかにし、それらの能力を高めることを前提とする。

## 2. 「創造的な教材」を開発する。

従来の保育・教育現場では取り扱われなかったような新しい視点での教材を開発する。その際、環境(Ecology)に配慮した視点を盛り込む。表現に積極的に生活廃材や身近雑材料を活用する。

## 3. 「創造的な教材開発」による評価を分析する。

学生による授業評価、「材料銀行」や「アート・ギャラリー」の取組から評価分析を行い、考察を加えて教材開発の課題を明らかにする。

# 研究の実際

## 1. 「造形表現力」とは何か

吉田泰男は、著書「美的教育原論」<sup>2)</sup>の中で、「表現過程から、造形表現力を見て、①着想・発想力、②構想力、③技術的能力、④評価・鑑賞力のような捉え方ができよう」と述べているように、「造形表現力」は大きく4つの視点で分けられる。

まず、「着想・発想力」とは、具体的には、「想を得る、ひらめく、思い浮かぶ、思いつく、考案する、(～から)ヒントを得る」(着想)力と「考え浮かぶ、考える、思いつく、発起する、考案する、考えつく」(発想)力である。

「着想」と「発想」はほぼ同義語であると考えられるが、初発にひらめいたり、思いつくのが着想であり、じっくり時間をかけて、考え出すのが発想であるというニュアンスの違いがある。

次に、「構想力」とは、「仕組む、設計する、計画する、デザインする、立案する、意図する、目論む」力である。「着想・発想」の時点より一歩進んで、「構想」では、より鮮明なイメージを持ち、自分が表現したいイメージについて計画的に製作(制作)設計を立て、具体的にデザインを考案する力である。

「技術的能力」について、吉田は、同著の中で具体的に詳しく「技法」として列挙している。以下の通りである。

- 「描く、塗る、着色する、染める、にじます、ぼかす、はじく、濡らす、乾かす、流す」
- 「並べる」
- 「積む、重ねる」
- 「接着する」
- 「破る、ちぎる」

- 「丸める」
- 「巻く、結ぶ、包む」
- 「折る、たたむ」
- 「曲げる、ねじる」
- 「叩く、おす」
- 「切る、切り抜く」
- 「穴あけ、くりぬく」
- 「掘る」
- 「彫る」
- 「打つ、抜く」
- 「織る、編む」

これらの技法については、幼児の場合は、年齢とともに身体機能発達の違いに応じて、技法体験させることを配慮しなければならない。

最後に、「評価・鑑賞力」であるが、立原慶一の研究論文「主題表現法に基づく造形表現力と鑑賞及び評価能力育成に関する考察」<sup>3)</sup>において、「鑑賞力」「評価力」について、次のように述べられている。

「これまで鑑賞と評価の語がほぼ同じような意味で用いられてきたが、ここで能力上の違いを明確にするべく別々に定義される。鑑賞力とは、作品に織り込まれた美術的特質の意味を感受しうる能力、いわば作品を『見て意味や心情を感じる』力と考えられる。」また、「評価力とは、それを前提としつつも客観的な立場に立ち、作品の意味や心情が、一体いかなる表現方法を根拠に直観として画面に実現されているのか、を洞察する理性的な力である。」という定義をしている。

いずれも、研ぎ澄まされた豊かな「感性」を基盤として、発揮される能力である。

上記のように、「造形表現能力」を捉え、「幼児造形A」「幼児造形B」「表現B」の授業において、保育者を目指す学生の造形表現力をより一層高めるための創造的な教材開発を行った。

## 2. 「創造的な教材」を開発する。

保育者を目指す学生にとっては、幼児造形の指導者として、その造形表現力を高めるためには、いかに豊かな創作体験をさせるかが重要である。花篤實は著書「新造形表現」<sup>4)</sup>の中で、次のように述べている。

「要は、楽しく幅広く、豊かに、いろいろな材料経験、創作活動を重ねることによって、自己の感覚や感性を磨くことである。」「こうした経験を通して、ものの特性をつかみ、そこでの発想の方法や造形性、創造性をとらえられるようになるのである。それはまた、幼児の造形活動の指導にかかわるとき、その活動の中でそれらの特性の読み取りにつながり、生き生きとした表現活動を展開

させる導路となっていく。」

このことから、学生たちが、これまでの小学校における「図画工作科」や中学校・高等学校における「美術」の教育においても、かつて経験したことのないような創造的な教材を開発し、その体験を通して、心の底から「造形表現は楽しい」と学生に実感させることが重要であると考えた。

### 1) 創造的な教材開発事例①

#### 「アルミホイル・アート」

保育・教育現場において扱われる立体表現の材料の一つに「粘土」がある。近年、その種類は、土粘土、油粘土、紙粘土、セラミック粘土と大幅に増え、色も白、黒、赤、セピア、ブロンズ、…と一段と多様化してきた。しかし、手の巧緻性が十分とは言えない幼児にとって、粘土をこねることに抵抗を感じる子どもも少なくない。そこで、粘土と同じような可塑性のある材料として、台所用品の一つでもあるアルミホイルを上げた。従来、部分的には造形材料として使用されることはあったが（「星」などの表現）、本教材では、アルミホイルを主材料として扱うこととする。

#### ○造形材料としての「アルミホイル」の魅力

- ・キラキラと輝きのある美しさがある。
- ・柔らかく、丸める、包むなどの造形操作が容易である。
- ・硬くして線材料、中にティッシュペーパー等の芯材を入れて包むと、多様な表現が可能となる。中に入れる芯材がカップとかフィルムケースなどによって、そのままの形が銀色になるという変化が楽しめる。
- ・「もむ」と「平らにする」ことで、輝き方が異なり、その両方を組み合わせることで表現に変化をつけることが可能となる。
- ・金属性の輝きのある「表側」と、艶消しの「裏側」を使い分けて、表現に変化をつけることが可能となる。
- ・セロファンテープ、液体ボンドなどで容易に接着が出来る。

#### ○授業の展開

- ①参考作品資料を鑑賞し、作品にしたいイメージを発想する。
- ②作品のイメージをラフスケッチする。

- ③ラフスケッチをもとに、アルミホイルを丸めたり、中に芯材を使用して包んだりしながら、つくりたいものを表現する。また、もんだり、平らにしたりして、表現に変化をつける。

（準備物：アルミホイル、ティッシュペーパー、カップ・フィルムケース等の芯材となる雑材料、セロファンテープ等接着剤、展示用黒色画用紙、）

- ④完成した作品を共同展示し、学生相互が作品を鑑賞できる場を設定する。

#### ○製作の様子



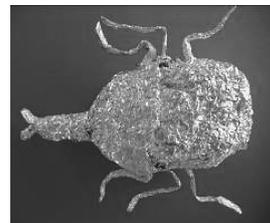
#### ○学生の作品から



目玉焼きとフライパン



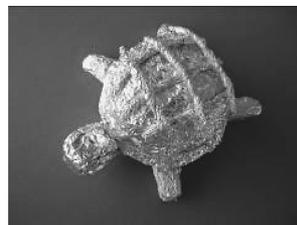
カタツムリ



カブト虫



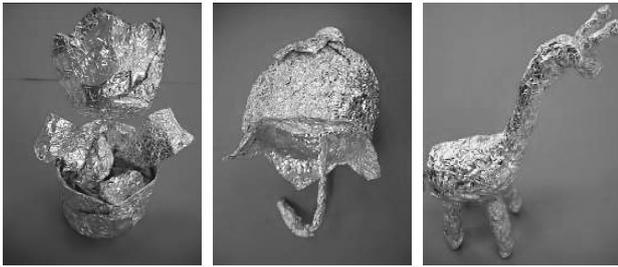
ランチ



カメ



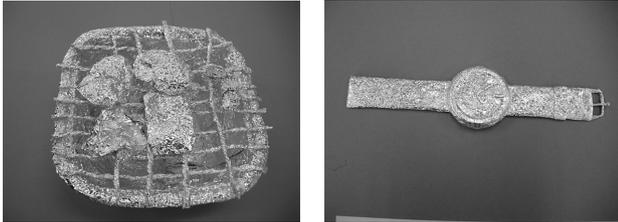
グランドピアノ



花

傘

キリン



焼き肉

腕時計

### ○教材の評価（学生アンケートより）

- ・アルミホイルをくしゃくしゃにすると、いろんなところから光がして大変綺麗でした。カップや王冠の形に合わせてアルミホイルで包むと、本物のように出来上がり、非常に面白いと思いました。アルミホイルから様々な日用品や生き物の細かい部分まで表現できるのがすごいと思いながら、とても楽しみながら作品づくりが出来ました。
- ・今まで様々な材料を用いていろいろな物を作ってきたが、特に身近にあり、頻繁に使用するアルミホイルを使用して腕時計を作ることが出来たことは、大きな感動と喜びがあり1番印象に残る授業でした。細かい作業が好きなので、小さいアルミホイルをねじって棒状にし長針・短針や文字盤の数字を作り、リアルさを追求できました。ツルツルのまま使用したり、もんでシワシワにしたり、1枚の同じ材料が見た目の異なる材料に変化させることが出来てよかったと思いました。クラスの友達作品を見ても、大変個性的で面白い作品がたくさんあり、観賞するだけでも楽しかったです。
- ・アルミホイルを何らかの形にするのが大変楽しかったです。1回丸めることによって、表面に面白い模様が出来て、キラキラ反射してきれいでした。それを使用して造形するのは初体験で、集中して製作することができました。90分の授業があつという間に終了し、ぜひとも、またやってみたいと思えるぐらい楽しい題材

でした。

### 2) 創造的な教材開発事例②

#### 「ラメのリアート～世界で一匹だけの不思議な蝶～」

「ラメのり」というのは、もともとは接着剤で、幼児が楽しみながら、ものの接着ができるように「液体のり」にキラキラ輝く「ラメ」を混ぜ込んだ材料である。

これを接着剤としてではなく、描画材料として使用し、乾燥させて一つの完成品として仕上げることは意外性があり、楽しさは大きい。

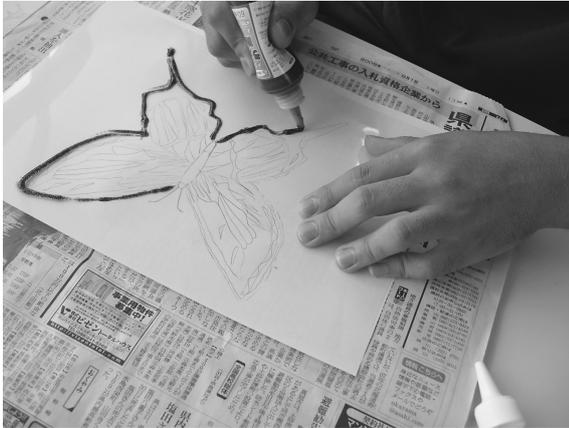
#### ○造形材料としての「ラメのり」の魅力

- ・100円ショップで販売されており、安価に購入できる。
- ・使用されている「ラメ」の種類が多く、「メタリック・カラー」「パステル・カラー」「蛍光カラー」「パール・カラー」などを組み合わせて使用することで、多様な表現が楽しめる。
- ・チューブに入っており、容器の腹を押しながら簡単に描画できる。幼児の場合は、弱い力でも描画できるように先を少々切り取って、口の穴を大きくする配慮が必要である。
- ・乾燥させると透明感があり、硬く強固になり、非常に軽いので展示が可能となる。

#### ○授業の展開

- ①参考資料（世界の珍しい蝶の写真資料）を鑑賞し、自分の描く蝶を発想する。
- ②蝶の体のしくみを知る。
- ③蝶の下絵を描く。幼児の場合には、既成のイラストやデザイン画も使用可。（準備物：ラメのり各色、下絵、塩化ビニル板A4）
- ④下絵の上に透明の塩化ビニル板を置き、その上に下絵の線をたどりながら、ラメのりで蝶を描画する。
- ⑤夏場なら3～4日、冬場なら1週間程乾燥させ、乾き切った蝶の描画を塩化ビニル板よりはがす。（乾くと自然にはがれる。）
- ⑥全員の作品を共同展示し、鑑賞する。

## ○製作の様子



## ○学生の作品から

## 「世界で一匹だけの不思議な蝶」



## ○教材の評価（学生アンケートより）

- ・蛍光色やパステルなど様々な種類があり、また、色数もたくさんあって、どの色を使おうか迷うくらいでした。様々な色を組み合わせると、すごく綺麗になりました。ラメが入ってキラキラしていて、子どもたちが楽しむと同じように自分も楽しめたので、すごく印象に残った授業でした。
- ・ラメのり自体知らなかったのですが、非常に新鮮で楽しめました。しかも、100円ショップで手に入るということで、自分が保育現場に出た時に役立てたいと思いました。
- ・ラメのりというのは聞いたことはあったけれど、実際に自分で使って作品を作るというのは初めてで、すごく楽しく作業することが出来ました。ラメのりにも、パステルなど色々な種類があって、違う種類を重ねることによって綺麗に見えたり、可愛く見えたりして面白かったです。私たち学生でもこんなに楽しめるということは、保育現場で使うと、子どもたちはもっと面白い作品を見せてくれるんじゃないかと思いました。

## 3) 創造的な教材開発事例③

## 「ポリ・アニマルをつくろう！」

保育・教育現場において、カラーポリ袋が造形材料として活用されることは少なくない。ゴミ袋の形状から、「ドレス」をつくり、「ファッションショー」を行うことや、袋の底を開いて平面にし、何枚もつないで大きなバルーンをつくることもある。今回は、カラーポリ袋を使用し、中に梱包材を詰めることで立体を表現する教材開発を行った。

## ○造形材料としての「カラーポリ袋」の魅力

- ・「はさみで切る」、「テープで接着する」ことが容易にできる素材である。
- ・カラーの種類（黒・赤・青・緑・黄緑・黄・橙・桃・茶・紫・白・金・銀）が豊富で、つくりたいイメージに合った色彩を選択することが可能である。
- ・造形操作を加える前は平面であるが、梱包材（エア・クッション、発砲スチロールなど）を詰めることで、立体的に変身させることが可能である。
- ・完成した作品は軽量であり、展示しやすい。

### ○授業の展開

- ①参考作品を鑑賞し、どんな動物をつくりたいか発想する。
- ②つくりたい動物のラフスケッチをする。
- ③つくりたい動物のカラーポリ袋の色を選ぶ。
- ④選んだカラーポリ袋にラフスケッチを参考にし、油性サインペンを使用して、出来るだけ袋に最大限の大きさで輪郭線を描く。

(準備物—カラーポリ袋13色, ビニルテープ, セロファンテープ, カラークラフトテープ, エア・クッション, 身近雑材料 他)

- ⑤下絵の線より1cm外をはさみで切り取る。
- ⑥ホッチキスで、下絵の線のところを止める。  
その際、中にエア・クッションを入れる口の部分は、開けておく。
- ⑦開けた口から手を入れ、底をつかんで引き出し、中表にひっくり返す。
- ⑧ビニルテープやカラークラフトテープ, PPテープなどで、動物の顔を描く。
- ⑨開けた口から、中にエア・キャップを小さくちぎりながら詰め込んで、口をセロファンテープなどで閉じて、作品を完成させる。

### ○製作の様子



### ○学生の作品から



ネズミ



ペンギン



キリン



ウサギ



トラ



ブタ



ニワトリ

### ○教材の評価 (学生アンケートより)

- ・とても楽しい授業でした。ポリ袋にも沢山の色があり、自由に形が切れたり、貼れたりできるので、自分が作りたいものが作れたのでよかったです。テープや布でデザインが可愛くなるので、保育者になった時に使えるなどと思いました。エア・クッションを入れる作業は大変でした。
- ・ポリ袋を使って大好きなネコを作りました。  
袋の中にエア・クッションを入れることで枕のようなフワフワ感が出て気持ちよかったです。他の人の作品も同じネコでしたが、全く異なったデザインで面白かったです。ポリ袋をホッチキスで止めるのも、子どもたちが危なくないように裏にして止めることも勉強になりました。
- ・ポリ袋を使って可愛い動物が出来て感動しました。みんなそれぞれに大変愛らしい動物が作れていたと思いました。クッションのような感触で、子どもたちも触って楽しむことが出来るとと思いました。色々と飾り付けをして、より立体感が出ました。

### 4) その他の新しい取組事例①

#### 「材料銀行」の設置

より豊かな造形表現を導き、表現材料の幅を広げるために、身近にある生活廃材や雑材料をBOXの中に収集し、造形教室前の廊下に設置して、「材料銀行」と名付けた。コピー用紙の使用済みの赤い空箱を活用した材料BOX「材料銀行」は、造形の表現材料がクレヨン・パ

ス・水彩絵の具のような描画材料や、画用紙・色画用紙・模造紙・色紙・セロファン紙などの面材料に限定されるのではなく、身近にある日用品の中にも造形表現を一層自由に、さらに豊かにできるモノがあると再認識させるのに有効である。

また、一度廃棄や処分されたモノを、造形材料としてリサイクル、リユースをすることは環境教育(Ecorogikal Education)にもつながり、有意義であると考えます。

### ○「材料銀行」



### ○「材料銀行」の中身（一部抜粋）



〈リボン〉



〈王冠〉



〈ひも〉



〈ガチャガチャ〉



〈木切れ〉



〈布切れ〉



〈カップ〉



〈雑材料〉

### ○「材料銀行」をフルに活用した作品例

#### 「ひもで描く絵～海の生物～」より



### 【使用した材料】

綴じ紐、貝殻、リボン、PPテープ、ビーズ、星形スパンコール、ネット、アルミホイル、ボタン、栓、モールド、布レース、薄紙皿、等

### ○「材料銀行」の評価（学生アンケートより）

- ・「材料銀行」で、リサイクルに出すような物を貯めておいて使用し、無駄にしないということを教わりました。どんな小さな物でも、造形材料になり、捨ててしまわずに取っておこうと思うようになりました。
- ・身近な材料から、素敵な造形作品が生まれてすごいと思いました。物を再利用することでエコにもつながるし、想像力もわくし、完成した時の感動が大きいと思いました。
- ・「材料銀行」に出合ってから、普段の生活の中で、これは使えるぞと目を向けるようになりました。下手に材料をすぐには買わずに、材料銀行の中から、自分の表したい表現に合う材料を発見した時の喜びは大きかったです。
- ・「材料銀行」は物を大切に作る心の現れだと思いました。身近な雑材料があんなに便利だとは思っていませんでした。少しでも使える材料があれば捨てずに、自分なりの材料銀行に貯めておこうと思いました。
- ・「造形は、材料集めから始まる」といつも先生が言われたように、家から使える材料はないかと探して材料銀行に入れておき、今日は何を使おうかというワクワク

ワク感を持続させることで、アイデアが浮かび、素敵な作品づくりが出来たと思います。

### 5) その他の新しい取組事例②

保育学科造形作品展「アート・ギャラリー」の開催  
教室から生まれた学生の創造性あふれる造形作品を一  
堂に展示し、鑑賞していただくと同時に外部からの授業  
評価もかねて、大学祭「白鷺祭」の時期に合わせて、保  
育学科「アート・ギャラリー」を開催した。3号館3階  
の造形教室を開放し、所狭しと約700点の作品を展示し  
た。実施概要は、次の通りである。

#### ①開催期間

- 平成22年10月16日（土）11時～17時
- 平成22年10月17日（日）10時～15時

#### ②開催場所

- 保育学科 3号館3階 3303教室

#### ③入場者数

- 第一日目 119名
- 第二日目 136名 計 255名

#### ④展示作品

「ラメのりアート～世界で一匹だけの不思議な蝶～」  
「ストーン・アート」「木の実アート」「アルミホイル・  
アート」「お弁当アート」「ゆれるおもちゃ」「スクラッ  
チ」「デカルコマニー」「コラージュ」「吹き絵」「瓶ア  
ート」「一枚の紙皿から」「打ち上げ花火」「ひもで描く絵  
(顔)」「ひもで描く絵(海の静物)」「ひもで描く絵(昔  
話) 以上、16題材 約700点

#### ○展示の様子（一部抜粋）



「世界で一匹だけの不思議な蝶」



「アルミホイル・アート」



「木の実アート」



「瓶のアート」



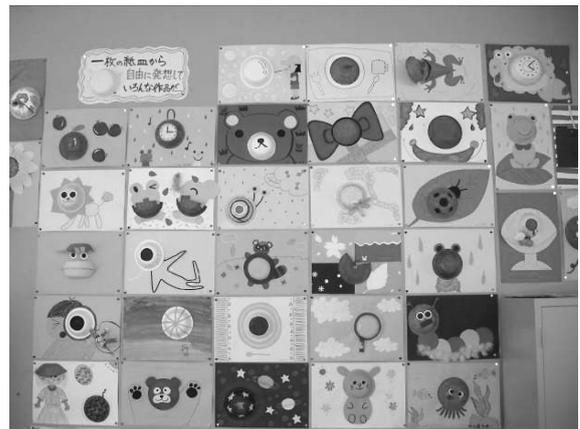
「お弁当アート」



「デカルコマニー」



「コラージュ」



「一枚の紙皿から発想して」



「ゆれるおもちゃ」



「アルミホイル・アート」



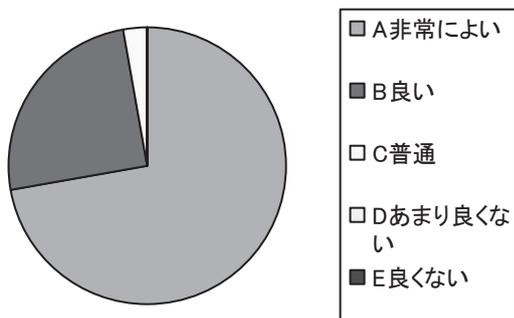
### 3. 「創造的な教材開発」による評価を分析する。

日々の授業において、出来るだけ創造的に教材開発を手がけ、保育者を目指す学生たちが将来保育・教育現場に出向いた時に、即実践できるような教材、これまでの小学校図画工作や中学校・高等学校の美術において経験してきた教材とは異なったタイプの講義を構築していった。また、そのための環境整備として、「材料銀行」の設置、授業の成果物としての作品を公開・展示した「アート・ギャラリー」も開催した。

ここで、学生たちがこれらの授業（教材開発）に対し、どのように「授業評価」をしたか、示したい。（「教材開発」に関係の評価を示す）

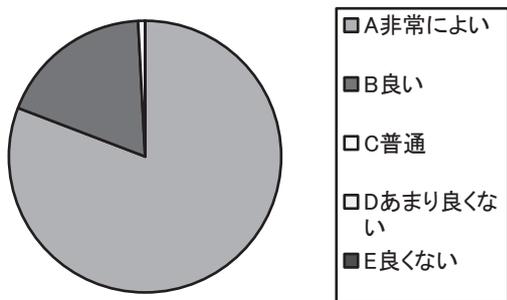
#### ○平成22年度前期「幼児造形A」授業評価より（保育学科1年生105名集計）

##### 1) 授業の内容は、あなたにとって理解しやすいものでしたか？



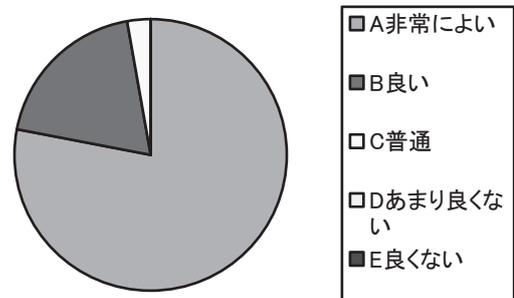
A : 72.4%    B : 24.8%    C : 2.9%  
D : 0%    E : 0%    A + B : 98.2%

##### 2) 授業の内容はあなたにとって興味あるものでしたか？



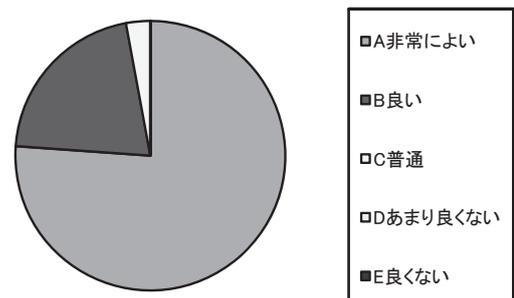
A : 80.0%    B : 18.1%    C : 0.9%  
D : 0%    E : 0%    A + B : 98.1%

##### 3) あなたは、この授業で新しい知識や技術が身についたと思いますか？



A : 78.1%    B : 19.0%    C : 2.9%  
D : 0%    E : 0%    A + B : 97.1%

##### 4) あなたは、この授業を全体的にどのように評価しますか？



A : 76.2%    B : 21.0%    C : 2.9%  
D : 0%    E : 0%    A + B : 97.2%

その他の6項目（シラバスに関する2項目を除く）に関しても、ほぼ同様の数値が出ており、学生にとって、新しい造形教育の視点で創造的に開発した教材を中心的に扱った授業については、「非常に良い」「良い」のプラスの評価をあわせると、98%内外の高い評価を得たことがわかる。

##### 5) 学生による記述式アンケートの評価から

（保育学科1・2年生）

・身近な簡単な材料を使って、いろいろな表現が出来るんだと学ぶことの多かった授業で、将来きっと役に立つだろうなと思いました。捨てた物が意外と可愛い物に変身するのは嬉しかったです。これでゴミにならないと思いました。まさに、エコだと思いました。2年生になっても、この授業を受けたいです。

- ・この授業では、毎回いろいろな造形作品が出来て大変楽しかったです。身近な材料で作ることが出来て、とても良かったです。保育の現場に出た時に、絶対作ろうと思いました。毎週、この授業は90分があつという間に過ぎてしまい、次の週がくるのが楽しみでした。材料銀行にも、また余った何かを持っていこうと思いました。
- ・造形の授業で、自分の発想力が豊かになったような気がして、作品が完成した時、大きな達成感があり、とても楽しい授業でした。これから生かせる授業内容ばかりだったので、自分だけでも、もう一度製作してみたいと思う作品が多くありました。
- ・幼児造形の授業で、ペットボトルや瓶などを使った大きな作品と、マスキング・テープや色画用紙などを使った小さな作品を作りましたが、どんな材料を使っても、ステキな作品に仕上がったので、これからもいろんな作品づくりに挑戦してみたいと思いました。
- ・材料銀行のお陰があって、好きな材料をいろいろ選んで、自分の思う通りに自由に表現することが出来たので、表現の幅が広がり、楽しい時間を過ごせたと思います。
- ・小学校の頃から、図工や絵を描くのが苦だったけれど、短大に入って造形をしてみると、とても楽しくて驚きました。物を作るにしても、自分の思った通りにできて、「これを貼る」と強制されないで、自由に貼ったり描いたりできたことがとてもよかったです。保育園や幼稚園で必ず役に立つと思うので、ぜひ実践していきたいと思いました。

このように、多くの学生たちが、造形の授業を楽しみ、意欲的に取り組んだことが分かる。「楽しい」と感じた要因としては、「創造的な開発教材」の持つ魅力（新鮮さ、意外性、豊かな発想、未経験の技法や材料など）があるからではないだろうか。また、保育学科に入学した学生全般に表現活動の能力や資質が高く、心から楽しむことが出来たのではないかと考える。

## 考 察

学生による授業評価の結果から、「創造的な開発教材」を多く取り入れた授業に対する受け止めは、前述の通り

概ね良好であった。ここで、開発教材を多く取り入れた造形の授業の成果について、次のようにまとめたい。

### 1. 楽しく幅広く、豊かに、いろいろな材料体験や創作活動を重ねることができた。

殆どの学生が「造形活動は楽しい」と実感しており、これまでは苦手意識が強かった学生も「初めて造形が好きになった」と応えている。これまで経験したことのない「材料体験・技法体験」は、より主体的で意欲的な創造活動を引き出すことができる契機となった。

### 2. 様々な材料の特性をつかみ、それを生かしながら発想し、どのように指導したらよいかの具体的方法を体得することを通して、保育者が求められる造形表現力を高めることが出来た。

今回の開発教材で扱った材料は、従来の造形材料として一般的であったものより、学生にとってはむしろ新しく、これまで造形材料として扱った経験がなかっただけに、その扱い方を体験することにより、指導者の立場になった時の指導のポイントを自ら体感することができた。

### 3. 「材料」についての見方が変わり、廃材として処理されるどんな生活上の身近材料でも、素晴らしい造形作品を生み出す可能性があることを認識することができ、環境教育として、より一層「モノ」を大切にすリサイクル・リユースの精神を身につけることが出来た。

学生は、授業科目「幼児造形A」「幼児造形B」「表現B」の受講回数が多くなるにつれて、「材料銀行」にある様々な生活廃材や身近雑材料を活用するようになった。そのことで、表現は一層自由になり、豊かな表現の幅が広がっていったのではないかとと思われる。

また、「環境教育」の大きな成果として、授業中、「材料銀行」のフタを開けては、表現に活かせる材料を物色する学生の姿を多く見かけるようになったことが上げられる。それだけでなく、バイト先から大量の布切れを譲り受けてきた学生、会社からカラフルなガチャガチャを貰ってきた学生もいて、リサイクル・リユースの輪が広がってきた。同僚の先生方の中にも、「材料銀行」への大量預金者が現れるようになった。

## おわりに

本研究を通して、造形表現の指導において、改めて、「指導者こそ、まず創造的であれ！」ということを確認できた。保育者を目指す学生にとって、造形表現力が重要な資質・能力の一つであることを再確認しつつ、学生が保育・教育の現場で発揮される高い造形表現力を身につけられるよう、今後も継続してさらに「創造的な教材開発」を手がけたいと考える。幼児を取り巻く環境が大きく変わる中で、どのような造形教育が望ましいのか、また保育者はどういう指導が求められるのかを明らかにしつつ、一人一人の学生が身につけていく「造形表現力」の細かい分析・研究については、次年度を通して研究をもう一步深めたいと考えている。

- 7) 東山明編著：「表現活動を豊かにする絵画・製作・造形あそび指導百課」, ひかりのくに, 2007
- 8) 富山典子・岩本克子共著：「保育に役立つ絵画あそび技法百科」, ひかりのくに, 2006
- 9) 竹井史著：「作品展・親子イベントのイメージが膨らむ製作あそび百科」, ひかりのくに, 2006
- 10) 東山明監修, 竹井史編：「幼児の造形ワークショップ」(平面造形編), 明治図書, 2004
- 11) 東山明監修：「幼児の造形ワークショップ」(基本と展開編), 明治図書, 2008
- 12) あいち造形教育研究会著：「子どもの表現力をグングン引き出す造形活動ハンドブック」, 明治図書, 2010

## 引用文献

- 1) 野村智子・中谷孝子編著：「幼児の造形」—造形活動による子どもの育ち—保育出版社, 2009, p3
- 2) 吉田泰男(上越教育大学教授)著：「美的教育原論」, 文化書房博文社, 1991, p234
- 3) 立原慶一研究論文：「主題表現法に基づく造形表現力と鑑賞及び評価能力育成に関する考察」(宮城教育大学紀要第44巻), 2009, p86
- 4) 花篤實・岡田敬吾編著：「新造形表現」(実技編), 三晃書房, 2009, p9

## 参考文献

- 1) 辻田嘉邦著：「造形・美術の教育評価」, 日本文教出版, 2002
- 2) 森上史朗他編著：「保育内容 表現」, 光生館, 1996
- 3) 花篤實監修, 永守基樹・清原知二編集：「幼児造形教育の基礎知識」, 建白社, 1999
- 4) 井島勉(京都大学教授)著, 「美術教育の理念」, 光生館, 1969
- 5) 大阪児童美術研究会編：「新美術教育基本用語辞典」, 明治図書, 1982
- 6) 福井昭雄・高浦浩・板良敷敏著：「楽しい造形活動の育て方」, 東京書籍, 1982